

千栗八幡宮縁起



交通機関

公共交通機関

- JR鹿兒島本線「久留米（くるめ）」駅下車
 ①西鉄バス「佐賀バスセンター」（系統40番）行
 「千栗八幡宮前」下車 所要時間13分
 ②タクシー 所要時間10分



自家用車

- ①鳥栖インターから（所要時間約30分）
 長崎自動車道「鳥栖インター」で降りて鳥栖市街方面へ
 34号線を佐賀市内方面へ、約4.5Km直進
 「村田町」交差点を左折、約3Km直進
 「千栗八幡宮前」交差点を過ぎてすぐ右側に駐車場あり
- ②久留米インターから（所要時間約30分）
 九州自動車道「久留米インター」で降りて佐賀・日田方面へ
 「野々下」交差点を左折、約5km直進
 「東櫛原町」交差点を右折、約1.2Km直進
 「京町第二公園」交差点を右折、約2.5Km直進
 「千栗八幡宮前」交差点を左折、20m先右側に駐車場あり

千栗八幡宮社務所

〒849-0111 佐賀県三養基郡みやき町白壁2403
 電話 (0942) 89-5566
 FAX 89-5795

年間祭事

さいたんさい 1月1日 午前0時

新年の初めに国家の安泰と氏子崇敬者の平安を祈ります。



おかゆさい 3月15日 午前8時

2月26日に炊いて神殿に納めていた粥を取り出し、表面のかびやひびの様子でその年の天候や農作物の作柄を占います。



きねんさい 祈年祭 (春季大祭) 3月15日 午前11時

五穀豊穡と併せてあらゆる生産が増進するよう祈ります。

なごしさい 名越祭 8月1日 午前11時

茅の輪をくぐり罪穢を祓い、夏の疫病や災難からのがれるよう祈ります。



れいさい 例祭 (秋季大祭) 9月15日 午前11時

「放生会」ともよび、神社で最も重要な祭典で国家の安寧と氏子崇敬者の平安を祈ります。

ごじんこう 御神幸 9月第3日曜日

神輿に神様をお乗せし下宮までお下りします。当日は氏子地区による行列浮立の奉納があります。



おひたきしんじ 御火焚き神事 12月31日 午後11時30分

1年間お世話になったお札やお守りをお焚き昇あげた（浄火にかけること）いたします。

ご祭神

おんじんてんのう 應神天皇
ちゆうあいてんのう 仲哀天皇
じんぐうこうこう 神功皇后
ほか四柱 (難波皇子・宇治皇子・住吉明神・武内宿禰)

由緒

千栗八幡宮は、聖武天皇の神亀元年（七二四年）当時の肥前國養父郡司壬生春成がご神託を蒙り創建したと伝えられています。古来、宇佐神宮の別宮として聞こえ、平安時代には式外五所八幡別宮（大分宮、千栗八幡宮、藤崎八幡宮、新田神社、鹿児島神宮）として朝廷からも篤い尊崇を享けていました。また全国に一宮制が確立していくとともに当宮も肥前一宮と称されるようになり、南北朝の時代になると、当宮の西に千栗城が築かれ、戦国時代には神域も度々戦乱に巻き込まれ、社殿も幾度か焼失しましたが、天正十一年（一五八三年）龍造寺政家がこれを再興、鍋島の代になると、藩祖鍋島直茂は慶長三年（一五九八年）に社領二百石を寄進、また神社表坂下に現存する石造の肥前鳥居（町重要文化財）を奉納、以後、明治維新に至るまで鍋島家累代の尊崇を享けています。明治三十六年県社に、昭和十五年には国幣小社に昇格。

文化財

末社
紋社
宝物殿
武雄神社・鳩森稻荷神社・天満宮
左三ツ巴
入母屋造
乾珠・満珠、光格帝御宝扇
壬生春成公故事 等
社殿創設の絵図（2軸）県指定
肥前鳥居（第一鳥居）町指定